

## 平成30年度 沖縄地方ダム管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時：平成31年1月24日（木） 13：00～16：30
2. 場所：那覇第2地方合同庁舎2号館2階 災害対策室
3. 出席：上原委員長、大城委員、金城委員、諸喜田委員、津嘉山委員、盛下委員  
(欠席：立原委員、玉城委員)
4. 議事
  - (1) 「羽地ダム定期報告書（案）」について
  - (2) 「大保ダム定期報告書（案）」について
5. 主な意見
  - (1) 「羽地ダム定期報告書（案）」について
    - 洪水調節
      - ・沖縄では利水補給が重要視されがちだが、平成10年より降雨特性が変化しており、洪水調節のまとめにもそういった認識を示したうえで、今後、洪水調節の重要性も示すべきではないか。
      - ・近年、雨の降り方は明らかに変化していることから、水文の特性について十分に把握し、それらを踏まえた管理の検討が今後の課題となるのではないか。
    - 利水補給
      - ・これまでの利水補給の実績と観光収入との比較では、ダムが観光に貢献した具体的な効果について記述した方が良い。
    - 堆砂
      - ・堆砂量推移のグラフにおいて、堆砂量が大きく変化している年度があるが、トレンドを踏まえ、表現方法を工夫すべき。
    - 生物
      - ・供用後の底生動物は、H28にコンジテナガエビ等の回遊性種が確認されているが、出水の越流時に遡上している可能性があり、越流実績を整理する必要がある。また、H29には確認されていないが、今後の調査においては、注意して見ていく必要がある。
      - ・オオクチバスの駆除については、獲り続けることが重要である。さらな

る放流がないようにダム管理者が主導して地域と共同で取り組んで頂きたい。なお、移入したリュウキュウアユは、現在確認されていないが、調査範囲を拡大する等してはどうか。

○水質

- ・経年的な水質データがまとめられているが、ダム貯水池の管理という観点から言うと、各水質項目の相互の関係にも着目する必要がある。

○水源地域動態

- ・ダム湖の利用において、名護の人が多いが、水の利用者である中・南部の人が少ない。水の利用者に北部の水を利用していることを知ってもらうために、今後の取組みにあたり留意が必要だろう。

(2) 「大保ダム定期報告書(案)」について

○洪水調節

- ・平成10年より降雨特性が変化しているとしているが、洪水調節のまとめにもそういった認識を示したうえで、沖縄では補給が重要視されがちだが、今後、洪水調節の重要性も示すべきではないか。
- ・近年、雨の降り方は明らかに変化していることから、水文の特性について十分に把握し、それらを踏まえた管理の検討が今後の課題となるのではないか。

○生物

- ・匍匐型魚道について、上流の沢まで甲殻類の遡上が可能なようにしたことだが、ウナギ等、魚類は遡上させないのか。アオバラヨシノボリの保全のためとのことだが、捕食するものがないのでクロヨシノボリが増えるのではないか。生物の多様性は重要で有り、そういったことも含めて、よく検討してほしい。

○水質

- ・それぞれのダムの課題をまとめてダム毎に比較してみると、ダム湖全体を含めての課題が見えてきて、ダム毎の課題、特徴というのが見えてくるのではないか。